

プ ロ グ ラ ム

10:30~10:35 開会の挨拶 所長 木谷 信之

◆一般講演

セッション：「防災・減災」

10:35~10:55 洪水危険度見える化プロジェクト 河川研究部長 鳥居 謙一

10:55~11:15 「つぶやき」情報で土砂災害から命を救う 土砂災害研究部長 渡 正昭

11:15~11:35 沿岸都市部を津波・高潮から守る 沿岸海洋・防災研究部長 鈴木 武

11:35~11:55 地震で倒壊しない建築物から地震後も使える建築物へ
建築研究部 建築新技術統括研究官 奥田 泰雄

セッション：「維持管理」

11:55~12:15 地球12周! 見えない下水道を護る 下水道研究部長 鈴木 穰

12:15~12:35 道路構造物のメンテナンスサイクルを回すために 道路構造物研究部長 真下 英人

12:35~13:35 休 憩

◆特別講演

13:35~14:35 社会・経済イノベーションを導く国土技術政策
筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授 石田 東生

◆一般講演

セッション：「イノベーション」

14:35~14:55 ETC2.0データを用いた道路交通の見える化 道路交通研究部長 伊藤 正秀

14:55~15:15 地方創生に資するコンパクトシティの形成に向けた研究 都市研究部長 佐藤 研一

15:15~15:35 航空市場の環境変化と需要予測手法の研究動向 空港研究部長 谷川 勇二

15:35~15:55 休 憩

15:55~16:15 港湾分野におけるAIS活用の可能性と北極海航路航行実態の分析 港湾研究部長 小泉 哲也

16:15~16:35 社会資本整備プロセスにおける生産性向上の研究動向
防災・メンテナンス基盤研究センター長 鈴木 篤

16:35~16:55 住宅・建築物の着実な省エネルギー設計への誘導 住宅研究部長 福山 洋

16:55~17:00 閉会の挨拶 副所長 春日井 康夫

◇開会の挨拶

所長 木谷 信之



◇講演者及び演題

特別講演



社会・経済イノベーションを導く国土技術政策

筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授

石田 東生

<プロフィール>

・東京大学大学院修了後、東京工業大学助手、筑波大学講師、フィリピン大学客員教授、筑波大学教授を経て現職。

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント工学専攻長、筑波大学 学長特別補佐、筑波大学 教育企画室室長を歴任。

・交通計画・国土計画・都市計画等を専門とする。
・社会資本整備審議会道路分科会臨時委員、社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会委員・国土幹線道路部会委員・事業評価部会委員、社会資本整備審議会環境部会建設リサイクル推進施策検討小委員会委員、観光庁世界に誇れる広域観光周遊ルート検討委員会副座長、新道路技術会議委員長等を歴任。

・日本都市計画学会論文奨励賞、日本道路会議優秀論文賞を受賞。

一般講演



洪水危険度見える化プロジェクト

河川研究部長 鳥居 謙一

常時および非常時に自治体や住民が的確に判断し、行動をとるためリスクコミュニケーションが重要である。

組織、個人の情報リテラシーの特性を前提にわかりやすい情報提供を目的とした洪水危険度見える化プロジェクトについて紹介する。



「つぶやき」情報で土砂災害から命を救う

土砂災害研究部長 渡 正昭

ソーシャルネットワークサービス（SNS）として市民権を得たツイッター（Twitter）にスポットをあて、140字の「つぶやき（ツイート）」に込められた情報を土砂災害の発生監視や警戒避難に役立てるための技術開発について紹介する。



沿岸都市部を津波・高潮から守る

沿岸海洋・防災研究部長 鈴木 武

沿岸部に都市・工業地帯が発達する日本は、そこでの資産や営みを津波や高潮から守っていかざるをえない。日本の地理・経済や自然現象の特徴を踏まえ、津波や高潮への対応にどう取り組んでいくのか、幾つかの取組を紹介する。



地震で倒壊しない建築物から地震後も使える建築物へ

建築研究部 建築新技術統括研究官 奥田 泰雄

災害拠点建築物等は、大地震において倒壊しないだけでなく、地震後も継続して使える必要がある。大地震後の機能継続のための研究開発として、RC造建築物の損傷制御設計法と高耐震吊り天井工法について紹介する。



地球12周！ 見えない下水道を護る

下水道研究部長 鈴木 穰

累積延長が46万kmに達し、今後、老朽管の急激な増加が見込まれる下水道管路を効果的に維持管理していくために必要な管路の調査優先度判定システムや、低コストで効率的な調査技術について紹介する。



道路構造物のメンテナンスサイクルを回すために

道路構造物研究部長 真下 英人

橋やトンネル等の道路構造物のメンテナンスサイクル（点検、診断、措置、記録）を回すための、非破壊検査技術の活用、損傷状態に応じた補修・補強設計技術、耐久性を向上させる設計技術など最新の取り組みについて紹介する。



ETC2.0 データを用いた道路交通の見える化

道路交通研究部長 伊藤 正秀

本格的な普及が始まった ETC2.0 では、車の位置・時刻・加速度等のデータが得られる一方、よりきめ細かい情報を車に提供することも期待される。本技術を用いた道路交通分析や利用者サービスについて、研究の現況と今後の可能性について述べる。



地方創生に資するコンパクトシティの形成に向けた研究

都市研究部長 佐藤 研一

地方創生の視点から、コンパクトシティの形成が各地で試みられている。これを支援するための、中心市街地の活性化、郊外部の再編・縮退、公共交通の活性化等に関する研究やその成果の活用状況を紹介する。



航空市場の環境変化と需要予測手法の研究動向

空港研究部長 谷川 勇二

航空市場の環境変化や観光政策等の状況を踏まえつつ、首都圏空港の機能強化や LCC（格安航空会社）の参入拡大等に対応した今後の航空政策支援のため、その基礎となる航空需要の予測手法に関する研究動向について紹介する。



港湾分野における AIS 活用の可能性と北極海航路航行実態の分析

港湾研究部長 小泉 哲也

AIS を活用した台風、津波来襲時の船舶の避難水域規模推計手法の開発や、AIS を活用した北極海航路航行実態に関する分析等、AIS 技術の活用の可能性や港湾政策への展開に関する研究を中心に紹介する。



社会資本整備プロセスにおける生産性向上の研究動向

防災・メンテナンス基盤研究センター長 鈴木 篤

官民連携による新たな事業執行方式の導入、ICT 技術等の活用による建設生産システムの効率化、設計・積算基準の標準化による現場施工の省力化・効率化など、社会資本整備プロセスの生産性向上に関する研究の動向について紹介する。



住宅・建築物の着実な省エネルギー設計への誘導

住宅研究部長 福山 洋

本年7月に「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」が成立し、住宅・建築物の省エネルギー化に向けた動きが本格化していくこととなった。ここでは、この基準を支える、エネルギー消費性能評価手法の開発やそれによって変わる設計技術等について紹介する。

◇閉会の挨拶

副所長 春日井 康夫

